

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	㊸【身を守り、生き抜くための技能】 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。	体育
<p>【題材】 着衣水泳</p> <p>【対象】 5・6年 （63名）</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>1 ねらい</p> <p>①水難事故を想定した疑似体験をすることで、万が一に備えての心構えをつくる。</p> <p>②水難事故に陥った場合の脱出あるいは救助を待つまでの方法を知る。</p> <p>2 期日 平成26年9月12日（金）</p> <p>3 場所 野田村民プール</p> <p>4 留意事項</p> <p>学習指導要領では、着衣のまま水に落ちた場合の対処については、各学校の実態に応じて取り扱うこととなっている。震災津波時、本校は浸水域とはならなかったが、児童の暮らす地域は大きな被害を受けている。そのため、着衣水泳を指導する必要性は感じていた。</p> <p>今年度は、村民プールからの了承を得ることができたので実施することができた。しかし、衣服のまま水に入ること震災津波の体験を思い出す児童もいると予想されるため、教育相談担当より以下の留意事項を示し指導にあたりると共に、巡回型スクールカウンセラー勤務日に授業を設定し、児童の様子に配慮しながら授業を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>①事前指導、打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着衣水泳実施の意味を児童に伝える。 ・着衣水泳のしかた、手順を教え、見通しをもたせる。 ・不安を感じる児童の質問には丁寧に答えたり、検討して回答したりする。 ・児童の様子を把握できるように指導事項や教師の指導分担、配置など打合せをしておく。 <p>②授業中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子を把握する。（表情・態度・発言） ・「こわい」と感じることを否定しない。 <p>③事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子把握（表情・態度・発言・感想） ・「こわい」と感じることを否定しない。 ・着衣水泳実施の意味を再確認する。 </div>		

5 授業の展開

①準備体操及び説明【5分】

②着衣による感覚の違いを体感する。【25分】

- ・着衣で歩いたり泳いだりして、水着のときとの違いを体感する。
- ・いろいろな泳ぎ方を試みて、どの泳ぎ方が一番泳ぎやすいかを試してみる。

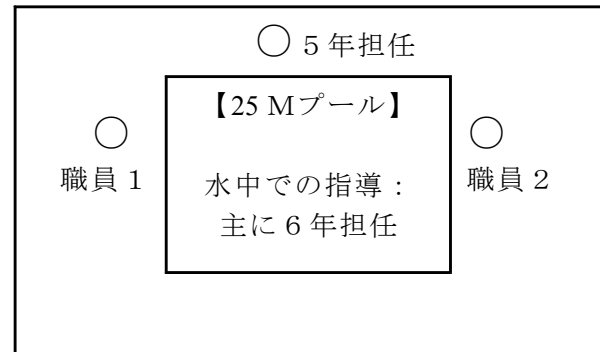
③様々な救助の方法を体験する。【15分】

- ・何もない状態で浮いてみる。
- ・ペットボトルやボールを使って浮いてみる。(ペアで)
- ・ロープや長い棒で救出する。(代表数名)

④濡れた着衣の後始末【10分】

⑤感想発表【5分】

※ 職員配置図



【児童の感想】

- 服を着たままプールに入ると、とても重くて大変でした。プールを一周するときも、流れてきた水に体が押されて歩きにくくて大変でした。もし、自分がおぼれたりおぼれている人がいたりしたら、ペットボトルやボールでも浮かぶことが分かりました。こういう体験を生かして、自分の命だけでなくみんなの命も守っていけるようにすることが大切だと思います。
- 水の流れに逆らうことができず、服が重くなり、水が少しこわいと思いました。命を守ることは大変だけど、もしこういうことがあったら、今日学習したことを生かして命を守ろうと思いました。
- やっぱり、万が一に備えるのは大切だと思います。服でもペットボトルでも命を守れることを知りました。また、ひもや棒で人を助けられるのはすごいと思いました。この学習を生かして人を助けたり命を守ったりできるといいなと思います。

【まとめ】

- ・いざというときに生命を救う方法を学ぶよい機会であった。今後も繰り返し学習し、万が一に備える心構えを育てたい。
- ・事前指導を丁寧に行ったからか、授業中に「こわい」と口に出す子はほとんどいなかった。
- ・事後指導で書かせた感想には、「こわい」と書く子が多かったが、「こわさ」を知り、その後どう対処するべきか理解していた。